

推進校は、飼育動物が死亡した際に、児童に生命の尊さを伝える取組を実施しています。また、学校担当獣医師から、遺体の検案、埋葬場所の準備、埋葬の処理などについて支援を受けています。

★★

### 実践事例

#### 小平市立小平第九小学校

##### 【実践の概要】

○特別支援学級で飼育しているモルモットのほしくんが亡くなった際、学校全体に周知し、有志のお別れ会を行いました。ほしくんは、支援学級だけではなく、通常学級の児童も休み時間等に飼育教室に遊びに来たり、「ふれあい教室」で交流したりしていました。



亡くなったほしくんのお別れ会

##### 【学校担当獣医師や保護者等との連携】

○亡くなった3日後が学校担当獣医師協力の下で行う「ふれあい教室」の授業日だったため、亡くなったモルモットと児童から集まった手紙を紹介していただき、命についてのお話をしていただいた。

##### 【児童の反応】

○身近な動物の「死」という経験を通して、これまで当たり前だと思っていた「命」について考えるきっかけとなった。

○児童の手紙には次のような内容があった。

- ・いままでありがとう。さわったときすごくかわいかったよ。いいことばかりおきたのはほしくんのおかげだよ。(2年生)
- ・いままで生きててくれてありがとう。てんごくでもげんきでね。ほしくんのおもいではいっしょにねたり、おそうじのときにちかよってきてくれたことがおもいでだよ。にじのはしのふもとでまっいてね。げんきでね。いままでありがとう。ともだちの〇〇より。(特別支援学級6年)